

# 荒井会計通信



発行日 平成24年10月15日(月)  
発行者 〒162-0825  
東京都新宿区神楽坂3-1-17  
ハイポイントビル5階  
荒井会計事務所  
TEL03-3235-5180  
FAX 03-3235-5190  
URL : <http://www.e-shoroku.com/>

VOL.24

日本人で夢と希望を持つ人は大分減ってしまった。今年初めに朝日新聞が行った日中韓3ヶ国世論調査によると、「5年後のあなたの生活は」の問いに、「良くなっている」と答えたのは中国71%、韓国48%に対し、日本はわずか7%であった。夢は将来何かになりたい、何かを達成したい、どこかに行ってみよう等、空想的願望である。希望は夢を実現するための一つの架け橋である。親は自分が出来なかったことを夢に例え、親の夢を子供に託し、子どもには、なるべく多くのチャンスを与える努力をする。小学校入学前あたりから、有名大学への進学、またはスーパースターを夢見て、子どもの意思(夢)を無視して、塾やスポーツ教室等に通わせる。しかし親の夢とは暗に反して、子ども達の夢はスポーツ選手、獣医・ペット屋、保母さん、学校の先生等、案外と地味なのである。

親及び子どもの夢に、自然の中で人間らしく生きていこうという夢はほとんどない。農業・林業・漁業等の第一産業で将来生業をたてていこうという夢がないのである。本来、人間は自然と共生して生きていくというのが自然界の原理原則なのだ。

しかし現代人の生きる哲学には、自然界を破壊するだけで、時を超越した神秘的で奥深い自然と共生していこうという夢を持たないのだ。日本を含む欧米諸国が資本主義社会に埋没して約150年になる、自然界から逸脱してしまった人間社会は、訳の分らない空間に彷徨い、地に足が着かない生活を強いられている。自然からの逃避は人類の滅亡を意味しているのだが、我々は自覚できないでいる。今はパソコン・携帯電話等のウェブ上の仮想空間に彷徨い、既に人格まで破壊され無味乾燥な生活を強いられている。人類は早急に自然の中に戻らないと、世界経済の崩壊と共に滅亡してしまうだろう。

## 荒井昇の辛コラム 24

【日本の子どもの悲痛な心の叫びが聞こえる】

『日本の子どもの表情が暗い、元気がない、そのような言葉をこれまで、どれほど聞かされてきたかことか。とりわけ海外に出かけるカメラマンたちの数々の証言のなかに、そのような発言が目立っていたような気がする。』



アフリカやアジアの各地で飢えている子どもたちと接するなかで、その子どもたちの表情がいかにも明るく、生き生きしているか、その姿を紹介して、あまりにもかけ離れた両者の対照に注意をむけようとする傾きもないではなかった。

日本国内においても、田舎の子ども達の素朴な顔の表情とひきくらべて、都会の子ども達のけわしい顔つきや無表情について指摘することが珍しくはなかった。』と宗教家の山折哲雄氏は“子どもの顔の危うさ”と題して、日経(9/30朝)で語っている。

そして、山折氏は『ルネッサンス時代(14~16世紀)の聖母子像に登場してくる「子どものイエス」の絵でラファエロの描いたイエスは純潔そのもので愛らしい。ところが意外なことに、レオナルド・ダ・ヴィンチのイエスは何とも不気味な表情をたたえている。ときには大きな眼球を剥ぎ、にこりともしないで、前方をじっとみつめている。みるものの心を刺すような鋭い視線を放っている。この二人の大画家の聖母子像の違いを氏は……ラファエロの絵は多くの人々に受容され、ダヴィンチの絵は敬遠されてしまうだろう。ではダヴィンチの描くところの怖ろしい「子なるイエス」は、もしかするとからだは子どものまま、しかしこころ(精神)はどんどん成長してしまった子どもでないか、そう疑ったのである。』

からだどころがアンバランスなままに成長した子どもの危うさをダヴィンチはほとんどそれこそ本能的に見抜いていたのかもしれない、と……後日ひらめくものがあつたと』と語っている。

私は機会があつてアフリカのガーナに8年前に行ったことがある。ガーナに約5日間滞在したが、現地の子ども達の目の輝きと生き生きとした明るさが非常に印象に残った。その他海外にも何回か行ったが、日本の都会(田舎含む?)の子どもには見られない、目の輝きと生き生きとした明るさが漂っていた。

【子どもの幸せとは?】

山折哲雄氏の言葉ではないが、日本の子どもは幸せなのだろうか?金持ちになること、有名大学に入ること、ブランド企業に入社すること、スーパースターになること等々を夢みて、幼少時から塾通い等して、大人でない子どもの体に覚えさせようとするのは、決して幸せとは言えないのだと思う。ダヴィンチの聖母子像のような何とも不気味な、にこりともしないで、じっと前方をみつめ、みるものの心臓を刺すような鋭い視線を放ったまま、大人になってしまう、沢山の子どもが日本にはいるのだと思う。

子どもが自然と共生していく夢をみ、それが希望を与え、その希望を実現していく人生が、人間にとって一番幸せなのだと思う。

【世界資本主義経済崩壊シリーズ NO5】

【いま世界経済はどのような状況なのか?】

昨年9月1日以来の会計通信 NO24 の発行である。この間にも、世界経済は大きな変化をしてきた。米国のバブル崩壊後(崩壊後、約1年後にリーマンショックを引き起こすことになる。)、米国、日本、EU、そしてイギリス等先進国および中国は経済(財政、金融)を維持するために、大幅な金融緩和(国債の発行、紙幣の大量増札と金利の引き下げ)をしてきた。

裏面に続く

現在先進国の財政は日本、米国、ギリシャは赤字額が膨大で、また多くの国の連合体であるEUも簡単には財政出動（国債の発行）が出来ない。また金利は押し並べてほぼ零（ゼロ）金利である。このため金融緩和は中央銀行が国債の国債を買い取る方法（貨幣増刷）に頼るしかないのが現状である。この1年間だけで各国の中央銀行が行った国債の発行等の主なものを、逆時系列に次に列挙してみた。

① 2012年10月13日アメリカの中央銀行（FRB）はリーマンショック以来の金融緩和第3弾であるQE3を政策決定した。主な内容は次の通り。

イ、景気回復には効果が高い住宅建築に、毎月無制限に約3兆円を国民に住宅建築費用を無利子で貸し付ける。この貸付期間は無期限で、景気が立ち直る気配が確認できる時期まで。

ロ、現時点ではほぼ零金利ある貸出金利を、2015年の中頃まで据え置く。

② 2011年8月から2012年9月19日までの約1年間に日本銀行は国債購入基金を40兆円増やし40兆円から80兆円に限度額を上げた。これによって、新たに国債40兆円の購入にあてた。（40兆円の紙幣の増刷）

過去（2008年11月以前）市中に出回っていた日銀券（現金）は80兆円であったから、リーマンショック以来、実に倍の現金が日本国内にバラ蒔かれているのだ。

③ 2012年9月6日、欧州中央銀行（ECB）は南欧（スペイン、イタリア等）短期国債（償還期間が1～3年）を無制限に買い入れることをECB理事会（ただ理事のなかドイツのみが反対票を投じた。）で賛成多数で可決し確定した。

④ 2012年2月10日イギリス中央銀行は500億ポンド（約6兆円）の国債購入枠を増額し3250億ポンド（約40兆円）にした。米国の金融緩和QE3番である

### 【世界資本主義経済にハイパーインフレーションが迫る】

上記に掲げたように、米国の2007年7月のバブル崩壊後に、2008年10月のリーマンショックが起き、この予防策として資本主義国家（中国含む）は過大な金融緩和実施（金利の引き下げ、国債の増発）してきた。

米国のバブル崩壊は、その前兆に日本バブル崩壊があった。この二つのバブル崩壊は同じ土俵から生まれた自然の流れであった。

この崩壊は1971年のニクソンショックで米国の金ドル本位制の維持が困難になってからは、貨幣の増刷に歯止めがかからなくなったことに起因している。

ドルの金兌換を停止し、ドル固定相場制から変動相場制にしたからである。変動相場制になり米国はドル紙幣を大量に印刷し国内外にバラ蒔いた。

この結果、米国は国内外に大きな赤字（財政赤字と貿易赤字）を生み出し、破滅的に現在も毎年大きな2つの上記赤字を作り出している。この間、米国の借金経済の

お陰で日本は大きな貿易黒字を出し、金余りで資産バブルを生み出したのである。

また、1971年以降は世界各地で資本市場が発達し、グローバルに活躍する大金融機関が生まれた。これらの流れはバブルを発生させ、今まさに世界大恐慌に突入しようとしている。

いずれにしても多額の国債の買い入れは、市中にお金を大量に印刷してばら撒くわけであるから、将来のインフレーションの芽大きく残すことになる。

### 【ハイパーインフレーションの突入は地獄への入り口である】

上記③で記載したように欧州中央銀行が南欧の国債を無制限に買い入れることに、ドイツが国債買い入れに反対したのは、第二次世界大戦勃発の起因になったのが、戦前のドイツで起きたハイパーインフレーションがもとであったからである。

戦前のドイツは毎日数倍の物価上昇があり、いくらお金を印刷しても間に合わない状況が続いたのだ。1923年1月から11月の11ヵ月の期間で1マルクの価値はなんと23億マルク分の1と驚異的な数字に値下がりしたのである。これは、資産家が銀行に23億円を預けていた預金が11ヵ月後に僅か1円の価値になってしまったという、笑うにも笑えない現実が戦前のドイツで起きてしまったのだ。

この結果、後日ドイツ国内に宰相ヒトラー等の極右翼政権が登場し、一直線に戦争に向かっていくのである。

これから世界経済はハイパーインフレーションの罠に嵌っていくのである。これは自然界の秩序をメチャメチャにしてしまった、資本主義国家社会に対する神の怒りと復讐である。

### 【ハイパーインフレーションの対策】

- ① 健康を維持すること。（早寝、早起き、散歩、ジョギング、読書、ダンス、スポーツ、歌声喫茶、読書、仕事、勉学等で心と身体に刺激を与えること。）
- ② 借金をせず、地道に貯蓄（現金・預金は暴落するので貯蓄の一部（1/4）を貴金属（出来たらゴールド）換えること）。また日本円・米国ドルは価値が無くなるのでユーロ・カナダドル・スイスフラン等に分散しておくこと。
- ③ 家庭農園耕作、生産農家と交流し、最低限の毎日の食料を確保すること。
- ④ いま生きること感謝し、いまを一生懸命生きること。

以上

上記内容の詳細については過去発行した【荒井会計通信】NO1～23及びブログで連載中の荒井会計日記にアクセスして早急に対策をうってください。

次号に続く

筆者：荒井 昇